



やましんサロン

2025.8.21

SNS写真短歌の素材に

■山形市 黒沼貞志 78歳

故あって、この1年は外出を少し制限してありました(特に写真撮影)。加えてこの夏の酷暑は外出する気持ちをなえさせるものでした。

そのような中で時間を費やした楽しみがあります。それはフェイスブック上で友達になつてゐる方たち(130人余)の投稿に添付されている写真の中から、短歌を詠む素材を見つけ出すことです。

見つけたら、その写真の現場に立つた気持ちになつて、短歌を詠みます。それを写真に添えて共同制作の「写真短歌作品」に仕立てます。6、7月に制作した

作品数は20点余りです。それらの作品は写真撮影者の了承を得た上で、フェイスブックへの投稿やメールマガジンの配信などで紹介しております。

これらの作業を通して多くの方々から「いいね」の反応やコメントを頂戴するというシーンが生まれ、対面ではないコミュニケーションを楽しむことができ、はまっております。

実はこのような写真短歌の制作活動は少し前から取り組んでおりました。山形市立図書館で始めた写真短歌の常設展示は2019年3月21日付本紙に記事が掲載され、やましんサロンで

も2020年4月17日に「『写真短歌』知り親しんで」、同年10月23日に「投稿契機交流生まれる」が掲載されました。23年には市

立図書館で3回の市民講座(入門編、実践編、鑑賞編)を開催しているところです。